

北九州市立埋蔵文化財センター (本文p.5~p.12)



所在地：小倉北区金田一丁目1番3号
 竣工：昭和57(1982)年
 開館：昭和58(1983)年
 平成30(2018)年度入館者数：4,186人

●事業内容
 ①埋蔵文化財の発掘調査
 ②出土品の整理と収蔵
 ③埋蔵文化財の研究
 ④埋蔵文化財の普及啓発

●市内の埋蔵文化財収蔵施設(総数約94,600箱を収蔵)

施設名	収蔵数※1	収容率
市立埋蔵文化財センター	4,700箱	100%※2
古城収蔵庫	80,000箱	100%
南方収蔵庫	5,800箱	85%
浜町収蔵庫	4,100箱	80%

※1 縦600×横400×高さ150mmの樹脂製のコンテナ箱の箱数。
 ※2 市立埋蔵文化財センターは、各年度に実施する出土品を追加で収蔵し、調査研究を行うため、収容率が100%となっています。

●現在の埋蔵文化財センターの課題 (本文p.14)

- 1 施設の老朽化
- 2 埋蔵文化財センターの認知度の向上
- 3 収蔵スペースの確保
- 4 収蔵資料の有効な活用
- 5 ユニバーサルデザインへの対応
- 6 アメニティ設備等の充実
- 7 他施設との連携・交流

●旧八幡市民会館活用案に至るまでの経緯 (本文p.17)

旧八幡市民会館は、施設の老朽化により、運営を続けるには多額の改修費用がかかることなどから、平成28(2016)年3月31日付けで市民会館としての機能を廃止しました。

その後、旧八幡市民会館を保存活用して欲しいとの市民の意見や、「資産の有効活用」、「総量抑制」という公共施設マネジメントの視点を踏まえて、市において検討した結果、埋蔵文化財センターが、

- ①近い将来、老朽化対策として大規模な改修工事が必要である
- ②当該地は、マンションが隣接するなど高度利用が図られるべき地区である

ことから旧八幡市民会館を埋蔵文化財センターにコンバージョン(用途変換)し、埋蔵文化財センター及び収蔵庫として活用することを平成30(2018)年8月に発表しました。

旧八幡市民会館 (本文p.15)



所在地：八幡東区尾倉二丁目6番5号
 竣工：昭和33(1958)年10月
 設計・建設：村野・森建築事務所
 備考：昭和35(1960)年に第1回BCS賞受賞
 ※BCS賞＝一般社団法人日本建築業連合会が国内の優秀な建築作品を表彰

●移転後に期待されること(本文p.17)

旧八幡市民会館は、JR八幡駅から徒歩10分の位置にあり、公共施設である埋蔵文化財センターが移転することで新たなにぎわいの場を形成することができます。

また、周辺には、様々な文化施設や大学等もあり、移転後は、これらの施設と多様な事業を展開することが可能となります。

●施設コンセプト (本文p.21)

- 1 文化財の保存・継承の場
市内収蔵庫の一部集約及び収蔵スペースの拡充
- 2 地域の歴史の理解を深め、郷土愛を育む場
埋蔵文化財について学べる研修室の設置
- 3 文化財に身近に触れ、親しむことができる場
ワークショップや体験型の学習ができるスペースの設置
- 4 周辺文化施設などと連携・交流を図る
北九州市立自然史・歴史博物館との連携



●改修・整備の考え方 (本文p.25~p.29)

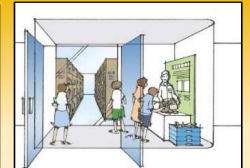
- 1 外観は村野藤吾氏が設計・建築した建物の現状保存を原則とし、安全に配慮した改修を行う。
- 2 屋根・外壁の大規模改修を行い、耐震性能の向上を図るとともに、内部は埋蔵文化財センターの機能を持たせるために改修。
- 3 ホール1階観客席部分を収蔵庫とし、2階観客席は保存。
- 4 ゾーニングや配置計画は、現在の埋蔵文化財センターの機能を基本として整備。
- 5 一階ホワイエ部分を活用し展示スペースを設置。
- 6 多くの利用者を受け入れる施設として、多言語対応などユニバーサルデザインに配慮。
- 7 一般駐車場・大型バス駐車場を確保し、市内外からのアクセスを向上。

●施設構成 (本文p.30~p.32) ※詳細ゾーニング等は次ページ

フロア	見学ゾーン (一般公開)	調査・収蔵ゾーン
地下1階	エントランス・研修室	事務室、資料室、水洗・整理室など
1階	埋蔵文化財展示室 ライブラリーコーナー	収蔵庫、整理作業室
2階	八幡市民会館に関する展示コーナー	整理作業室、写真撮影室

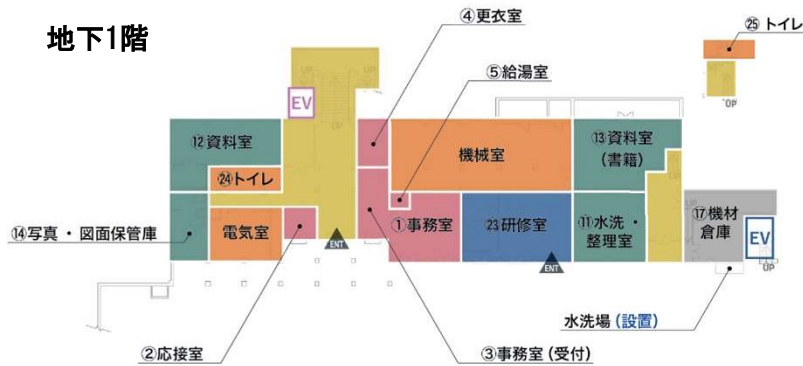
●展示コンセプト(本文p.37)

- 1 北九州市の歴史を知る
- 2 埋蔵文化財の仕事を知る
- 3 北九州市の考古学の最前線を知る



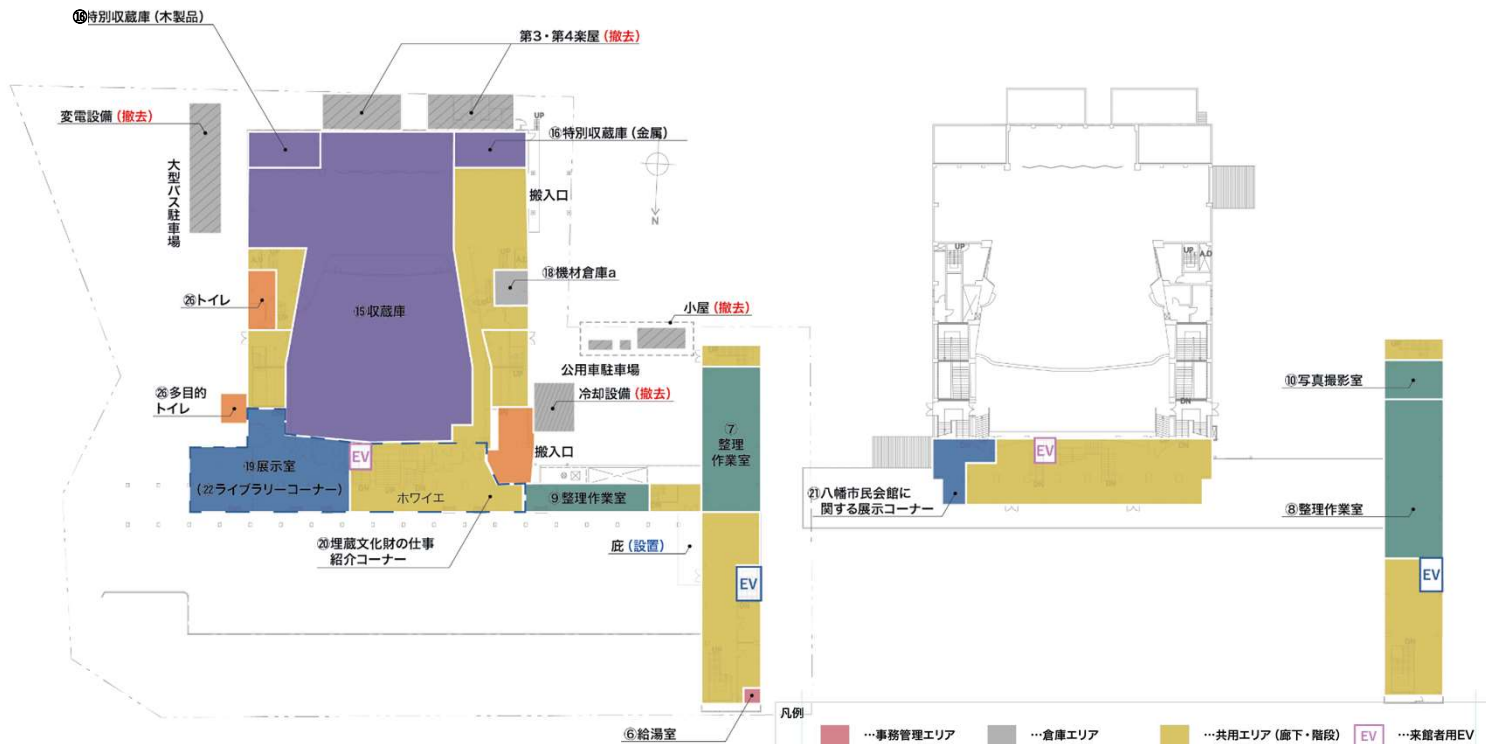
開放的な展示室をつくり、市内全域の遺跡と実物を中心とした遺物を紹介します。また、埋蔵文化財の仕事紹介を行う展示コーナー、収蔵庫・整理作業室の一部を見学できるスペースを設けることで、埋蔵文化財業務への理解を深めます。

●施設ゾーニング(本文p.30~p.32)

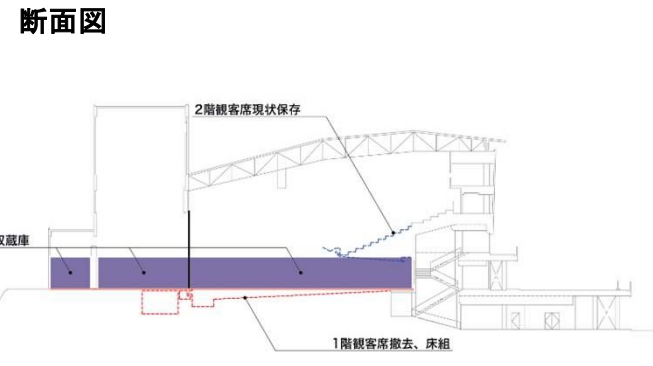


駐車場(一般20台程度身障者用3台程度)

1階



- 凡例
- 事務管理エリア
 - 調査作業エリア
 - 収蔵エリア
 - 倉庫エリア
 - 展示・普及エリア
 - 展示スペース
 - 共用エリア(廊下・階段)
 - 共用エリア(トイレ等)
 - 解体部分
 - EV ●来館者用EV
 - EV ●機材リフト



2階

●各エリアの主な部屋と必要面積
※検討面積は概数(参考資料p.14、p.15)

ゾーン	機能区分	室名称	検討面積 (従来面積) m ²	
調査・収蔵ゾーン	事務管理	事務室・応接室など	141 (112)	
		調査整理作業エリア	整理作業室	321 (601)
			資料室・資料図面保管庫	186 (173)
	写真撮影室	40 (35)		
収蔵エリア	倉庫	収蔵庫	1010 (600)	
		特別収蔵庫(鉄器・木器)	110 (79)	
	機材倉庫	73 (87)		
見学ゾーン	展示・普及エリア	展示室・展示コーナー ライブライリー	400 (310)	
		研修室	100 (69)	
その他		トイレ (多目的トイレ含む)	各階	
		エレベーター 機材リフト	各1台	
		一般駐車場 (身障者用含む) 大型バス駐車場	20台程度 2台	

施設改修費: 14億8千万円(概算)
当初案16億6千万円より約1億8千万円の削減
※消費税率10%想定。施設設計費用、展示概算費用は含まない

- ① 収蔵庫を一層にし、2階客席を保存。
既存区画を活用し、約1億4千万円コストダウン。
- ② 管理用EVを機材リフトに変更し、約3千万円コストダウン。
- ③ 今後、プロポーザル方式で基本設計を行い、技術提案を募ることで費用の削減に努める。

●スケジュール(本文p.34)

ステップ	内容	所要期間	備考
ステップ1	基本計画	半年	
ステップ2	基本設計	約1年	
ステップ3	実施設計	約1年	
ステップ4	建設	約1年 4ヶ月	
	運営開始		全体工程として 5カ年強を要する (所要期間は契約準備等 を含まない)

● 1F、2F展示室のイメージ図 (本文p.38~p.45)

1F: 埋蔵文化財展示フロア

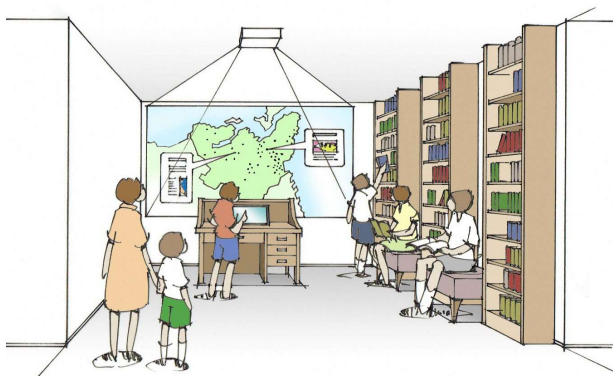


【展示室】

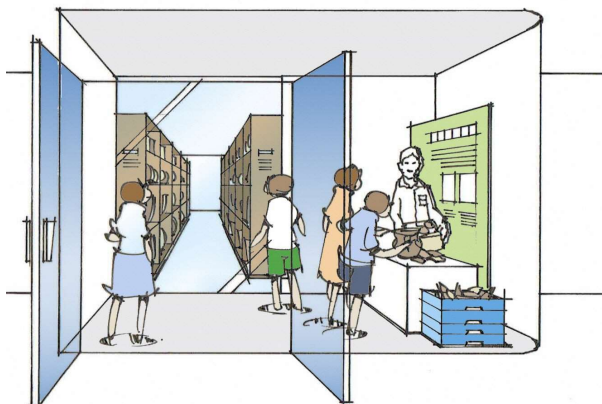
- A: 導入コーナー
- B: 出土品展示コーナー
- C: 埋蔵文化財地図コーナー
- D: 埋蔵文化財の仕事紹介コーナー
- E: 遺跡発掘速報展コーナー



B: 出土品展示コーナー



C: 埋蔵文化財地図コーナー

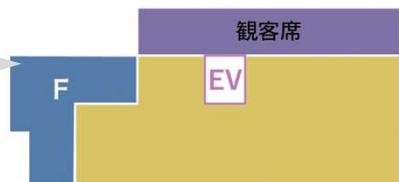
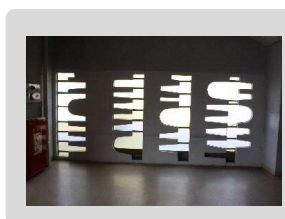


D: 埋蔵文化財の仕事紹介コーナー



E: 遺跡発掘速報展コーナー

2F: 旧八幡市民会館に関する展示フロア



F: 旧八幡市民会館に関する展示コーナー

F: 旧八幡市民会館に関する展示コーナー

旧八幡市民会館に関する展示を行います。ホワイエ、ロビー部分のデザインを利用した展示スペースとすることで、有名な近代建築を間近に感じながら見学できます。

< 展示内容 (案) >

- ・ 旧八幡市民会館の紹介
- ・ 設計図などの建築資料
- ・ 当時使用していた什器など